


令和3年度

兵庫県公立高等学校学力検査問題

国語

注意

- 1 「開始」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 「開始」の合図で、1ページから10ページまで問題が印刷されていることを確かめなさい。
- 3 解答用紙の右上の欄に受検番号を書きなさい。
- 4 解答用紙の  の得点欄には、何も書いてはいけません。
- 5 答えは、全て解答用紙の指定された解答欄に書きなさい。
- 6 問題は五題で、10ページまであります。
- 7 「終了」の合図で、すぐ鉛筆を置きなさい。
- 8 解答用紙は、机の上に置いて、退室しなさい。

問題は、次のページから始まります。

落 語 会

開催日時 令和3年11月〇日

5・6校時

会 場 〇〇中学校体育館

出演者 のじぎくていひょうご
野路菊亭兵五

演 目 「日和違い」

落語ミニ知識

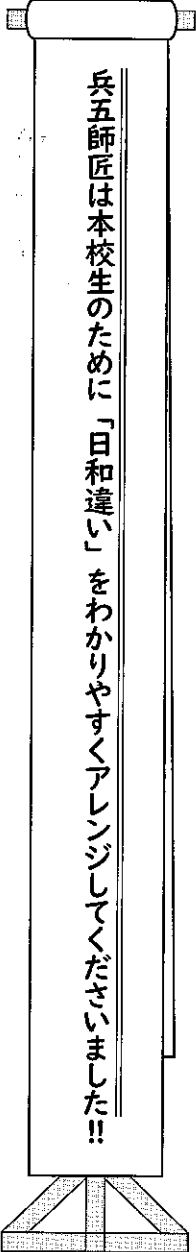
「落語」は日本の伝統芸能の一つ。

一人の演者が複数の人物を演じ分け、登場人物の会話のやりとりを中心に、話を進めます。

滑稽な話が多く、最後におちがつくのが特徴。
演者の技巧と聞き手の想像力で話の世界が広がっていく、親しみやすい芸能です。

〔内容〕

ある男が遠出をするのに、長屋に住んでいる占い師に天気を尋ねた。「今日は降る日和^①じゃない。」と言われ、安心して出かけたが、大雨に降られてしまう。男は、仕方なく米屋で米俵をもらい、それをかぶって帰ってきた。怒った男が占い師のところへ抗議をしに行くと、「今日は降る。日和^②じゃない。」と言り返された。何日かしてまた出かけるときに、今度は色々な人に天気を尋ねることにした。そして魚屋に「大降りはあるかね。」と男が尋ねると、魚屋は「ブリはないけどサワラならあるから、サワラ切るか。」と答える。男は言った。「いや、俵を着るのはこりごりだ。」



兵五師匠は本校生のために「日和違い」をわかりやすくアレンジしてくださいました!!

【ちらし案】

〇〇中学校文化委員会では、芸術鑑賞会のちらしを作成することになった。次の【ちらし案】は芸術鑑賞会のちらし案、【話し合い】はちらし案について文化委員が話し合いをしている場面である。【ちらし案】と【話し合い】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【話し合い】

Aさん 演目「日和違い」の内容紹介文をちらし案の「内容」欄に書きました。このままでも良いのですが、落語会が楽しみになる文章にしたいと思います。
Bさん まず、この話の面白さを伝えなければいけませんね。最初の場面の面白いところは、占い師が「今日は降る日和じゃない。」というせりふについて、a を変えることで自分に都合良く意味を変えているところですよ。

Cさん その通りです。だから、「今日は降る日和じゃない。」というせりふはそのままにしましょう。ただ、ちらしで全てを説明する必要はありませんね。

Bさん そうですね。ちらしを見た人が、話の続きを聞きたくなるような文章にしたいので、この場面の種明かしになる部分は書かない方が良いでしょう。

Aさん では、そうしましょう。数日後の場面はどうですか。色々な人が登場して、男が魚屋に天気を探ねることで、話におちがつく展開です。

Cさん ここは、登場人物も多く、特に演者の話芸を楽しむ場面だと思います。

Aさん なるほど、文章では面白さを伝えにくいということですね。では、その場面は書かないことにしましょう。他に意見はありますか。

Dさん 私は、ちらし案右下の「兵五師匠は」で始まる説明的な文が、ちらしにはふさわしくないと思います。敬語を使わず、b 「日和違い」!!< と体言止めにして、印象に残りやすくするというのはどうでしょうか。

Aさん 文の意味も変わらないし、落語会に関心を持ってもらえる文になると思います。そうしましょう。

問一 【ちらし案】の傍線部①・②の「日和」と同じ意味のことばとして適切なものを、次のア～カからそれぞれ一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 晴天 イ 日柄 ウ 予定 エ 時期 オ 風向き カ 空模様

問二 【話し合い】の空欄aに入ることばとして適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 発音の強弱 イ 文の区切り ウ 漢字の読み エ 助詞の使い方

問三 内容紹介文を【話し合い】の全体を受けて書き改めた。書き改めた文章として適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 「今日は降る日和じゃない。」と言う占い師の口車に乗せられて遠出をした男。米屋に着いたところで大雨が降り出し、米俵をかぶって帰ることにした。ひどい目にあった男は、占い師に仕返しを考える。その仕返しとは!?

イ 遠出をする男に天気を尋ねられた占い師は「今日は降る日和じゃない。」と答えたが、大雨が降り出して男の怒りを買うことになる。抗議をする男に占い師は「今日は降る。日和じゃない。」と平然と答えた。男の次なる行動は!?

ウ 遠出の前に、占い師に天気を尋ねた男。占い師の「今日は降る日和じゃない。」という言葉信じて出かけたが、大雨に降られ米俵をかぶって帰る羽目になった。頭にきた男は占い師に文句を言う。その時の占い師の返答とは!?

エ 男が天気を尋ねたところ、占い師が「今日は降る日和じゃない。」と言うので、男は安心して遠出をしたが大雨になった。次は用心して、あちこちで天気を尋ねて歩く。最後にたどりついた魚屋の返答に男は困惑。魚屋の返答とは!?

問四 【話し合い】の空欄bに入る適切なことばを、【ちらし案】の二重傍線部のことばを使って解答欄に合うように、二十五字以内で書きなさい。ただし、必要に応じて助詞を変えてもよい。

二 次の文章は、古代中国の魯の国の君主が、粗末な身なりで耕作していた曾子を見かねて、領地を与えようと使者を遣わしたときの話である。次の書き下し文と漢文を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔書き下し文〕

(使者が言うには)

(領地からの収入で)

曰はく、「請ふ此れを以て衣を修めよ。」と。曾子受けず。

反りて復た往く。又受けず。使者曰はく、「先生人に求むる

に非ず。人則ち之を献ず。奚為れぞ受けざる。」と。曾子

曰はく、「臣之を聞く。人に受くる者は人を畏れ、人に予ふ

る者は人に驕ると。縦ひ子賜ひて我に驕らざること有ると

も、我能く畏ること勿からんや。」と。終に受けず。

〔漢文〕

曰、「請以^①此修衣。」曾子不受。反復往。

又不受。使者曰、「先生非求^②於人。人

則献之。奚為不受。」曾子曰、「臣聞^a之。

受人者畏人。予^②人者驕人。縦^b子有^③

賜不^②我驕也。我能勿^④畏乎。」終不受。

(劉向「說苑」)

問一 傍線部①が表す意味と同じ意味の「修」を含む熟語として適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 修行 イ 修得 ウ 監修 エ 改修

問二 書き下し文の読み方になるように、傍線部②に返り点をつけなさい。

問三 二重傍線部 a・b が指す人物として適切なものを、次のア～エからそれぞれ一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 魯の君主 イ 曾子 ウ 使者 エ 筆者

問四 本文の内容として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 領地を受け取ってしまえば、魯の君主に対して卑屈にならずにはいられないと思ったので、曾子は受け取らなかった。

イ 求めてもいない領地を与えようとする魯の君主の行為には、何かしら裏があると感じたので、曾子は受け取らなかった。

ウ 自分のような者が魯の君主から領地を受け取るのは、あまりにおそれ多いと思ったので、曾子は受け取らなかった。

エ 安易に領地を与えようとする振る舞いにおごりの色が見え、魯の君主に不信感を抱いたので、曾子は受け取らなかった。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある人、咸陽宮の釘かくしなりとて、短剣の鏢に物数寄せて、腰も放た

ずめで興じける。いかにも金銀銅鉄をもて花鳥をちりばめたる古物にて、

千歳のいにしへもゆかしきものなりけらし。されど何を証として咸宮の釘

かくしと言へるにや、荒唐のさたなり。なかなか「咸陽宮の釘かくし」

と言はずはめでたきものなるを、無念の事におぼゆ。

常盤潭北が所持したる高麗の茶碗は、義士大高源吾が秘蔵したるものに

て、すなはち源吾よりつたへて、また余にゆづりたり。まことに伝来

いちじるきものにて侍れど、何を証となすべき。のちのちはかの咸陽の釘

かくしの類ひなれば、やがて人にうちくれたり。

(注) 咸陽宮——秦の始皇帝が秦の都である咸陽に造営した宮殿。「咸

宮」も同じ。

釘かくし——木造建築で、打ち込んだ釘の頭を隠すためにかぶせる飾り。

常盤潭北——江戸時代の俳人。

高麗の茶碗——茶人の中で愛好された高麗焼の茶碗。

大高源吾——江戸時代の俳人で赤穂義士の一人。

問一 二重傍線部を現代仮名遣いに改めて、全て平仮名で書きなさい。

問二 傍線部①の意味として適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア であらめな
イ したたかな
ウ おおぎっぱな
エ ぜいたくな

問三 傍線部②の本文中の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア はなやかな
イ 縁起がよい
ウ すばらしい
エ 珍しい

問四 傍線部③について、所持した順番として適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 潭北↓源吾↓筆者
イ 筆者↓源吾↓潭北
ウ 源吾↓潭北↓筆者
エ 源吾↓筆者↓潭北

問五 傍線部④の理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 品質を裏付ける証拠もないのに後生大事に茶碗を持っているのは恥ずかしいことだから。

イ 高価な茶碗だからといって所持することにこだわるのは風流の道に反することだから。

ウ 人からもらった茶碗をいつまでも自分の手元にとどめておくのは欲深いことだから。

エ いずれ不確かなるような来歴をありがたがって茶碗を所有するのはむなしなことだから。

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

高校一年生の松岡清澄は、結婚を控えた姉のためにウエディングドレスをつくろうとしている。ある日の昼休み、クラスメイトの宮多たちの会話中、見たい本があると行って自席に戻った。その日の放課後、小学校からの同級生である高杉くるみに声をかけられ、一緒に下校することになる。ふと気づくと、くるみは石を拾い上げ、その石を眺めていた。

「なにしてんの？」

「うん、石」

うん、石。ぜんぜん答えになってない。入学式の日「石が好き」だと言っていたことはもちろんちゃんと覚えていたが、まさか道端の石を拾っているとは思わなかった。

「いつも石拾ってんの？ 帰る時に」

「いつもではないよ。だいたい土日にかがしに行く。河原とか、山に」

「土日？ わざわざ？」

「やすりで磨くの。つるつるのぴかぴかになるまで」

放課後の時間はすべて石の研磨にあてているという。ほんまにきれいななんねんで、と言う頬がかすかに上気している。

ポケットから取り出して見せられた石は三角のおにぎりのような形状だった。たしかによく磨かれている。触ってもええよ、と言われて、手を伸ばした。指先で、しばらくすべすべとした感触を楽しむ。

「さっき拾った石も磨くの？」

くるみはすこし考えて、これはたぶん磨かへん、と答えた。

「磨かれたくない石もあるから。つるつるのぴかぴかになりたくないってこの石が言うてる」

石には石の意思がある。駄洒落のようなことを真顔で言うが、意味がわからない。

「石の意思、わかんの？」

「わかりたい、いつも思ってる。それに、ぴかぴかしてないときれいや

ないってわけでもないやんか。ごつごつのざらざらの石のきれいさってあるから。そこは尊重してやらんとな」

じゃあね。その挨拶があまりに唐突でそっけなかったので、怒ったのかと一瞬焦った。

「キヨくん、まっすぐやる。私、こっちやから」

川沿いの道を一步踏み出してから振り返った。ずんずんと前進していくくるみの後ろ姿は、巨大なリュックが移動しているように見えた。

石を磨くのが楽しいという話も、石の意思という話も、よくわからなかった。わからなくて、おもしろい。わからないことに触れるということ。似たもの同士で「わかるわかる」と言い合うより、そのほうが楽しい。

ポケットの中でスマートフォンが鳴って、宮多からのメッセージが表示された。

「昼、なんか怒ってた？ もしや俺あかんこと言うた？」

違う。声に出して言いそうになる。宮多はなにも悪いことをしていない。ただ僕があの時、気づいてしまったただだ。自分が楽しいふりをしていることに。

いつも、ひとりだった。

教科書を忘れた時に気軽に借りる相手がないのは、心もとない。ひとりではつんと弁当を食べるのは、わびしい。でもさびしさをごまかすために、自分の好きなことを好きではないふりをするのは、好きではないことを好きなふりをするのは、もっともつとさびしい。

好きなものを追い求めることは、楽しいと同時にとても苦しい。その苦しさに耐える覚悟が、僕にはあるのか。

文字を入力する指がひどく震える。

「ちゃうねん。ほんまに本読みたかっただけ。刺繡の本」

ポケットからハンカチを取り出した。祖母に褒められた猫の刺繡を撮影して送った。すぐに既読の通知がつく。

「こうやって刺繡するのが趣味で、ゲームとかほんまはぜんぜん興味なく

て、自分の席に戻りたかった。ごめん」

ポケットにスマートフォンをつっこんだ。数歩歩いたところで、またスマートフォンが鳴った。

「え、めっちゃうまいやん。松岡くんすごいな」

⑥ そのメッセージを、何度も繰り返し読んだ。

わかってもらえるわけがない。どうして勝手にそう思いこんでいたのだらう。

今まで出会ってきた人間が、みんなそうだったから。だとしても、宮多は彼らではないのに。

いつのまにか、また靴紐がほどけていた。しゃがんだ瞬間、川で魚がばしゃんと跳ねた。波紋が幾重にも広がる。太陽の光を受けた川の水面が風で波打つ。まぶしさに目の奥が痛くなって、じんわりと涙が滲む。

きらめくもの。揺らめくもの。目に見えていても、かたちのないものには触れられない。すくいにとって保管することはできない。太陽が驕ればたちまち消え失せる。だからこそ美しいのだとわかっていても、願う。布の上で、あれを再現できたらいい。そうすれば指で触れてたしかめられる。

身にまとうことだって。そういうドレスをつくりたい。着てほしい。すべてのものを「無理」と遠ざける姉にこそ。きらめくもの。揺らめくもの。どうせ触れられないのだから、なんてあきらめる必要などない。無理なんかじゃないから、ぜったい。

どんな布を、どんなかたちに裁断して、どんな装飾をほどこせばいいのか。それを考えはじめたら、⑧ いてもたってもいられなくなる。

それから、明日。明日、学校に行ったら、宮多に例のちゃんこなんとかというゲームのことを、教えてもらおう。好きじゃないものを好きなふりをする必要はない。でも僕はまだ宮多たちのことをよく知らない。知ろうともしていなかった。

⑨ 靴紐をきつく締め直して、歩く速度をはやめる。

(寺地はるな「水を縫う」)

問一 傍線部①・③・⑤の漢字の読み方を平仮名で書きなさい。

問二 傍線部②・⑧の本文中の意味として適切なものを、次の各群のA、Iからそれぞれ一つ選んで、その符号を書きなさい。

② A ふるえて I あからんで

ウ ひきつって I ゆるんで

⑧ A 身動きがとれなく I 考えをまとめられなく

ウ 不安に耐えられなく I 落ちて着いていられなく

問三 傍線部で使われている表現技法として適切なものを、次のA、Iから一つ選んで、その符号を書きなさい。

A 対句 I 擬人法 U 省略 I 倒置

問四 傍線部④の表現の説明として最も適切なものを、次のA、Iから一つ選んで、その符号を書きなさい。

A 無機物である石の気持ちさえ理解することができるくるみの感受性

I 他人の言うことに耳を貸さず趣味について語り続けたくるみのひたむきさを表している。

ウ 相手に左右されることなく自分の判断で行動するくるみの内に秘めた強さを表している。

I かみ合わない会話で気まずくなった雰囲気を感じないくるみの大らかさを表している。

ウ 相手に左右されることなく自分の判断で行動するくるみの内に秘めた強さを表している。

I 他人の言うことに耳を貸さず趣味について語り続けたくるみのひたむきさを表している。

ウ 相手に左右されることなく自分の判断で行動するくるみの内に秘めた強さを表している。

I かみ合わない会話で気まずくなった雰囲気を感じないくるみの大らかさを表している。

ウ 相手に左右されることなく自分の判断で行動するくるみの内に秘めた強さを表している。

I かみ合わない会話で気まずくなった雰囲気を感じないくるみの大らかさを表している。

問五

傍線部⑥の清澄の様子の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 誤解を招いてしまったことに戸惑い、何とか取り繕おうとした清澄に宮多の素朴な返信が届いた。清澄は読めば読むほどきまりの悪さを感じるとともに、誠実でなかった自分の態度を後悔している。

イ 勇気を出して本心を伝え得たことに満足していた清澄のもとに届いた宮多の返信は、賞賛の言葉に満ちていた。その言葉を読むごとに、清澄は自分の決断は正しかったとの思いを強くしている。

ウ 孤立さえ受け入れようと考えていた清澄に届いた宮多の返信は、意外なものだった。その飾らない言葉を読むにつけ、清澄は思い込みにこり固まっていた自分の心がほぐれていくのを感じている。

エ 謝罪が受け入れられるかどうか不安に包まれていたが、宮多からの返信は清澄への思いやりにあふれていた。清澄は、読むほどに人の優しさが身にしみ、人との接し方を見直そうとしている。

問六 傍線部⑦のからうかがえる清澄の刺繍に対する考え方の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 時とともに移ろい形をとどめるはずのない美しさを、布の上で表現することこそが、理想の刺繍である。

イ 布の上に美しく再現された生命の躍動によって、見る人に生きる希望を与えるものこそが、目指す刺繍である。

ウ 揺らめく水面の最も美しい瞬間を切り取って、形あるものとして固定することこそが、求める刺繍である。

エ ただ美しいだけでなく、身につける人に不可能に挑む勇気を与えるものこそが、価値のある刺繍である。

問七

傍線部⑧の清澄の様子の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 周りの人たちに理解してもらえず、焦って空回りしていた自分を冷静に振り返ることができた今、周囲の目を気にせず、純粹にドレスづくりに打ち込むべきだと自分を奮い立たせている。

イ 率直に周囲の人たちと向き合えば、互いの価値観を認め合う関係を築くことができることと気づいた今、自分を偽ることなく新たな気持ちでドレスづくりに取り組んでいこうと決意を固めている。

ウ わからないものから目を背けてきた自分の行いを反省し、未知のものを知ろうとすることによって新しい着想が得られた今、次こそは姉を喜ばせることができるという期待に胸を躍らせている。

エ 友人に心を開き、受け入れられた経験を通して、刺繍という趣味への自信を取り戻した今、クラスメイトと積極的に交流し、楽しさを共有できる関係を築くことから始めようと決心している。

五 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ネット情報と図書館に収蔵されている本の間には、そもそもどんな違いがあるのでしょうか。私の考えでは、両者には①作者性と構造化という二つの面で質的な違いがあります。まず本の場合、誰が書いたのか作者がはっきりしていることが基本です。著作権の概念そのものが、ある著作物には特定の作者がいることを前提に発展してきたわけで、だからこそオーファン著作物の処理が問題になるわけです。つまり、本というのは、基本的にはその分野で定評のある書き手、あるいは定評を得ようとする書き手が、社会的評価をかけて出版するものです。ですから、書かれた内容に誤りがあったり、誰か他人の著作の剽窃があったりした場合、責任の所在は明確です。その本の作者が責任を負うのです。

これに対してネット上のコンテンツでは、特定の個人だけが書くというよりも、みんなで集合的に作り上げるといふ発想が強まる②ケイ向にありま③す。作者性が匿名化され、誰にでも開かれていることが、ネットのコンテンツの強みでもあります。そこでは複数の人がチェックしているから④相対的に正しいという前提があつて、この仮説は実際、相当程度正しいのです。つまり、本の場合は、その内容について著者が責任を取るのに対し、ネットの場合は、みんなが共有して責任を取る点に違いがあるわけです。

二つ目の、構造化における違いですが、これを説明するためには、「情報」と「知識」の決定的な違いを確認しておく必要があります。一言でいうならば、「情報」とは要素であり、「知識」とはそれらの要素が集まって形作られる体系です。たとえば、私たちが何か知らない出来事についてのニュースを得たとき、それは少なくとも情報ですが、知識と言えるかどうかはまだわかりません。その情報が、既存の情報や知識と結びついてある状況を解釈するための体系的な仕組みとなったとき、そのニュースは初めて知識の一部となります。

よく知られた古典的な例として、コペルニクスの地動説があります。十

五世紀半ば以降の印刷革命によって、コペルニクスは身の回りに多数の印刷された天文学上のデータを集めておくことができるようになっていました。つまり、彼は活版印刷以前の時代とは比べものにならないほどの情報にアクセスできたのです。しかしそのこと自体は、まだ知識ではありません。コペルニクス自身が彼のいくつかの仮説に基づいてこれらの情報を選択し、比較し、数式と結びつけて仮説を検証していくことで、やがて地動説に至る考えにまとめ上げていったとき、単なる要素としての情報は体系としての知識に⑤テン化したのです。

このように、知識というのはバラバラな情報やデータの集まりではなく、中世からの「知恵の樹」のメタファーが示すように、様々な概念や事象の記述が相互に結びつき、全体として体系をなす状態を指します。いくら葉や実や枝を大量に集めても、それらは情報の山にすぎず、知識ではありません。情報だけでは、そこから新しい樹木が育ってくることはできないのです。

そして⑥インターネットの検索システムの、さらにはAIの最大のリスクは、この情報と知識の質的な違いを曖昧にしようことにあると私は考えています。というのもインターネット検索の場合、社会的に蓄積されてきた知識の構造やその中の個々の要素の位置関係など知らなくても、つまり樹木の幹と枝の関係など何もわからなくても、知りたい情報を瞬時に得ることができるわけです。つまり、ネットのユーザーは、その森のどのあたりがリングゴの樹の群生地か、その中のどんな樹においているか、その実が手に入ることが多いかを知らなくても、瞬時にちょうどいい具合のリングゴの実が手に入る魔法を手に入れているようなものです。それで、その魔法の使用に慣れてしまうと、いつもリングゴの実ばかりを集めていて、そのリングゴが実っている樹の幹を見定めたり、そこから出ているいくつもの枝の関係を極めたりすることができなくなってしまうのです。

さらにAIに至っては、ユーザーは自分がリングゴを探しているのか、オレンズを探しているのかわからなくても、目的を達成するにはリングゴが

適切であることをAIが教えてくれて、しかもまだ検索もしていない間に、適当なリングをいくつも探し出してきてくれるかもしれません。結局、私たちは検索システムやAIが発達すればするほど、自力で自分がどんな森を歩いているのかを知る能力を失っていく可能性があります。

本を読んだり書いたりすることが可能にするのは、これらとは対照的な経験です。読書で最も重要なのは、そこに書かれている情報を手に入れることではありません。その本の中には様々な事実についての記述が含まれていると思いますが、重要なのはそれらの記述自体ではなく、著者がそれらの記述をどのように結びつけ、いかなる論理に基づいて全体の論述に展開しているのかを読みながら見つけ出していくことなのです。この要素を体系化していく方法に、それぞれの著者の理論的な個性が現れます。

⑤ 古典とされるあらゆる本は、そうした論理の創造的展開を含んでおり、よい読書と悪い読書の差は、その論理的展開を読み込んでいけるか、それとも表面上の記述に囚われて、そのレベルで自分の議論の権いづけに引用したり、自分との意見の違いを強調したりしてしまうかにあります。最近では、おそらくはインターネットの影響で、出版された本の表面だけをつまみ食いし、それらの部分を自分勝手な論理でつないで読んだ気分になって書かれるコメントが蔓延しています。著者が本の中でしている論理の展開を読み取れなければ、いくら表面の情報を拾い集めてみても本を読んだことにはなりません。

今のところ、必要な情報を即座に得るためならば、ネット検索よりも優れた仕組みはありません。ある単一の情報を得るには、ネット検索のほうが読書よりも優れているとも言えるのです。

それでも、本の読者は一般的な検索システムよりもはるかに深くそこにある知識の構造を読み取ることができます。これが、ポイントです。調べものをしていて、なかなか最初に求めていた情報に行きつかなくても、自分が考えを進めるにはもっと興味深い事例があるのを読書を通じて発見するかもしれません。それに図書館まで行って本を探していたならば、その目当て

の本の近くには、関連するいろいろな本が並んでいて、そのなかの一冊に手を伸ばすことから研究を大発展させるきっかけが見つかるかもしれません。このように様々な要素が構造的に結びつき、さらに外に対して体系が開かれているのが知識の特徴です。ネット検索では、このような知識の構造には至らない。なぜなら検索システムは、そもそも知識を断片化し、情報として扱うことによって大量の迅速処理を可能にしているからです。

(吉見俊哉『知的創造の条件』一部省略がある)

(注) オーフアン著作物——著作権者不明の著作物。

剽窃——他人の文章・作品・学説などをぬすみ取ること。

地動説——地球が自転しながら太陽の周りを回っていると説。

メタファー——隠喩(暗喩)。

問一 二重傍線部AとCの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群のAとIからそれぞれ一つ選んで、その符号を書きなさい。

A ア 失敗をケイ機に改善する。 I ケイ勢が悪化する。

ウ ウ 小説にケイ倒する。 I 審議をケイ統する。

B ア 破テン荒の大事業。 I 針路を西へテン回する。

ウ ウ 和様建築のテン型。 I 領収書をテン付する。

C ア 装飾にイ匠を凝らす。 I イ大な芸術家。

ウ ウ どの意見も大同小イだ。 I イ厳に満ちた声。

問二 文中の波線部について、文脈を踏まえると「自力で」という文節はどの文節に係るか。一文節で抜き出して書きなさい。

問三 傍線部①の本文中の意味として最も適切なものを、次のAとIから一つ選んで、その符号を書きなさい。

A 作者への評価が正当かどうか。

I 作者を特定しやすいかどうか。

ウ 作者の責任が重いかどうか。

I 作者が実在するかどうか。

問四 傍線部②の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア チェックする人数にかかわらず、内容への信頼は保たれる。
- イ チェックする人の能力に関係なく、内容への信頼は保たれる。
- ウ チェックする人の能力が高いほど、内容への信頼が高まる。
- エ チェックする人数が多いほど、内容への信頼が高まる。

問五 傍線部③について、筆者が考える「情報」と「知識」の関係を説明した次の文の空欄 a・b に入る適切なことばを、a はあとのア～エから一つ選んで、その符号を書き、b は本文中から十字で抜き出して書きなさい。

a ことによって、手に入れた情報と既存の知識や情報とが b ように結びついたとき、情報は知識の一部となる。

- ア 複数の情報を一つのまとまりとして理解しようとする
- イ 情報技術を駆使して多くの情報を集めようとする
- ウ 集めた情報について一つ一つの構造を読み解こうとする
- エ 多くの情報から有益な情報だけを取得しようとする

問六 傍線部④とはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア コンピュータが大量の情報を体系的に整理してしまいうため、自分の力で情報を集めて整理する方法が習得できなくなる。
- イ 知識に基づく探索なしに目的の情報を得られるため、探索の過程で認識するはずの他の情報との関係に気づかなくなる。
- ウ 容易に情報が入手できる環境に慣らされることによって、ネット検索や AI を用いた情報の探索さえしなくなる。

エ 目的の情報を探し当てようとする意識がなくても目的が達成されることで、知識を身につける意義が感じられなくなる。

問七 傍線部⑤の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 本に書かれた著者の意見をうのみにするのではなく、本の中の情報をもとにして自分なりの考えを形成しながら読み進めること。
- イ 本の著者が取り上げた情報と取り上げなかった情報とを比較することにより、情報の選び方に現れた著者の個性を感じ取ること。
- ウ 本から得た情報を自己流でつなぎ合わせようとするのではなく、本の記述に基づいて、まず著者の思考の過程を追体験すること。

エ 本の記述について、隠れた意味を読み取るうとするのではなく、著者が作り上げた個性的な論理的展開に従って素直に読むこと。

問八 本文に述べられている内容の説明として適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 知識は、幹に相当する情報と、枝や葉に相当する情報が組み合わさった構造から樹木にたとえることができ、新しい理論のような価値のある情報は、その有効性から実にととえることができる。

イ 本を読めば、私たちは豊富な知識を得ることができるが、獲得した知識を発展させていく場合には、本に書いてある情報を自分で考えた論理でつなぎ合わせてしまわないよう注意が必要である。

ウ 単に知識を得るだけなら、本を読むよりもネット検索のほうが便利なので、大量のデータを取り扱う分野においては、ネット検索を活用することによって効率的に研究を進めることができる。

エ 理論面での整合性が保たれる限り、情報と情報との結びつけ方に制約はないので、私たちは身につけた知識を別の情報や知識と結びつけていくことによって、知識をさらに広げることができる。